

様式3

平成18年度 傾斜的研究費(特定)(全学分)(戦略分・公募分)研究報告書

研究テーマ区分 [①都市形成に関わる研究 ②特徴ある教育プログラム開発をめざす研究]

| 研究課題名 | 共通科目群プログラムによる複雑系都市環境科学の教育 | |
|---|---------------------------|---------------|
| 研究者／研究代表者名 | 所属部局名 | 職位 |
| 井上 晴夫 | 都市環境科学研究科 環境調和・材料化学専攻 | 都市環境学部長 教授 |
| 研究分担者名 | 部局名・所属研究機関名 | 職位 |
| 山崎 晴雄 | 都市環境科学研究科 地理環境科学専攻 | 教授 |
| 鈴木 毅彦 | 都市環境科学研究科 地理環境科学専攻 | 准教授 |
| 岩楯 敏広 | 都市環境科学研究科 都市基盤・環境工学専攻 | 教授 |
| 大口 敬 | 都市環境科学研究科 都市基盤・環境工学専攻 | 准教授 |
| 小林 克弘 | 都市環境科学研究科 建築学専攻 | 教授 |
| 小泉 雅生 | 都市環境科学研究科 建築学専攻 | 准教授 |
| 中林 一樹 | 都市環境科学研究科 都市システム科学専攻 | 教授 |
| 竹宮 健司 | 都市環境科学研究科 都市システム科学専攻 | 准教授 |
| 梶井 克純 | 都市環境科学研究科 環境調和・材料化学専攻 | 教授 |
| 山登 正史 | 都市環境科学研究科 環境調和・材料化学専攻 | 准教授 |
| 研究実績の概要 (600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。) | | |
| <p>都市環境科学研究科は、超複雑系としてのメガシティを構成する、1)自然、2)人間、3)物質、4)エネルギー、5)情報、6)人工物の6要素とその双補的關係を究理する新しい学問体系の体系化を設立の理念として、5専攻に共通する大学院の共通科目群の設定とその教育研究のあり方を検討することを目的とした。東京をフィールドに、これまで個別に進めてきた大学院教育研究を設立の理念に基づいて、再構築し、システムとしてまさに超複雑系であるメガシティの良好な都市環境づくりにかかわる達人(専門技術者や研究者など)の育成を目指して、以下のような教育体制を考究した。それには、地理学(自然、人間)、土木工学(自然、人間、人工物)、建築学(人間、人工物)、都市科学(人間、情報、人工物)、応用化学(物質、エネルギー)の双補的連携の教育体制が不可欠で、以下のような共通科目群構成を提案し、一部の取り組みを始めた。</p> <p><実践的都市環境教育プログラムの構成と拡充提案></p> <p>1)都市環境のT型スクーリング： 専門分野としての深い研究洞察力の育成に加えて、超複雑系「都市環境」への幅広い視野を、学際的アプローチとしての「共通科目」「プロジェクト科目」「インターンシップ科目」の履修を通して獲得する。</p> <p>2)都市環境教育の国際化： 国際的アウトリーチプログラムとして米ジョウジタウン大学における「科学英語研修」を充実するとともに、「国際会議」の開催により「国際交流」の拡充を図る。</p> <p>3)現場連携による都市環境の実践教育化： 東京都など都市自治体連携による「都市環境プロジェクト研究」、「インターンシップ科目」を通しての実践教育研究の推進。</p> <p>4)上記のためにさらに、拡充整備すべき大学院教育制度： ①ビデオ・シラバスの作成、②東京などの都市自治体との連携教育制度を提案し、ビデオシラバスの準備を始めた。</p> | | |

様式3

| 研究発表 [雑誌論文発表、図書、学会発表等] | | | |
|------------------------|-------------------|-------------|----|
| 著者 (講演者) | 論文題目 (発表題目) | 発表誌 (発表大会名) | 年月 |
| | 本研究に関する研究発表論文はない。 | | |